

平成30年度 第2回山武市総合教育会議 会議録

日 時 平成31年2月1日(金) 午前10時  
場 所 山武市役所 第5会議室  
議 題 山武市教育委員会の取組について

出席者 ◎市長 松下 浩明

◎教育委員会

教育長 嘉瀬 尚男  
教育長職務代理者 小野崎 一男  
委員 今関 百合  
委員 清水 新次  
委員 木島 弘喜  
委員 渡邊 礼子

○関係職員

副市長 寺澤 毅彦  
総務部長 石橋 和記  
教育部長 小川 宏治  
保健福祉部長 小川 雅弘  
総務課長 荒木 康之  
財政課長 鈴木 幸宏  
企画政策課長 中村 洋一  
子育て支援課長 横地 博  
子育て支援課主幹 野口 博明  
教育総務課長 齊藤 榮一  
学校教育課長 中村 正浩  
学校教育課指導室長 越川 幸夫  
学校再編推進室長 川島 美雄  
生涯学習課長 神谷 英典  
スポーツ振興課長 大谷 広貴  
歴史民俗資料館長 山口 直人  
学校再編推進室主査 鈴木 慎太郎

・事務局

教育総務課総務企画係主査補 鈴木 秀一

---

◎開 会

教育部長

おはようございます。ただいまから平成 30 年度第 2 回山武市総合教育会議を開催いたします。

皆様には、大変お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

なお、本日の総合教育会議を傍聴したい旨、1 名様から申し出がございました。

傍聴人をお願い申し上げます。

傍聴は、山武市総合教育会議設置要綱第 8 条の規定で、山武市教育委員会会議傍聴規則の例によるとされておりますので、同規則各条項を十分に遵守して傍聴をお願いしたいと思います。遵守されない場合は、退場をお願いする場合がございます。

第 9 条で、傍聴席において写真などを撮影し、又は録音等をしてはならないと規定されております。本日の総合教育会議につきましては、録音は許可しておりません。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず、松下市長にご挨拶をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

市長

それでは、皆様、おはようございます。今日は雪が降ってしまいまして、皆様方もこちらへお越しに影響したかと思えます。

今日、こちらへ来まして雪に対する報告を受けまして、大きな事故はなかった。それで、これからその後についてしっかり対応しているということでございました。

また、電車のほうも総武本線の佐倉、八街間がとまっていると、テレビで流されておりました。おそらく、枝が垂れていたのかなと思っておりますので、来週、JR の関係で、要望等、千葉市に行きますので、毎回、それじゃ困るということで、また要望してきたいと考えております。

教育委員の皆様方におかれましては、日ごろ市政、また教育行政に関しまして、多大なるお力添えをいただいておりますことに、まず初めに感謝を申し上げます。ありがとうございます。

本日は、市長に就任して、昨年 8 月 28 日に続いて、2 回目の総合教育会議でございます。前回の総合教育会議では、山武市教育委員会の取り組みについて、1 つは学力向上への取組として、グローバル教育について及び ICT 教育について、皆様方のご意見等を伺いました。また、山武市立小中学校の規模適正化・適正配置については、皆様方からご意見等を伺い、目指すべき

方向性について調整をさせていただきました。

本日は、山武市教育委員会の取組について、1、成東・東金食虫植物群落について、2、学力向上について、3、コミュニティ・スクールについて、4、山武市立小中学校の規模適正化・適正配置についての4議題について用意をさせていただきました。これらについて、事務局から取組について、現状や抱えている問題等について説明をいただき、教育委員会の皆様方よりご意見を伺いたいと考えております。

この会議が、より有意義な場になるようお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。本日は、よろしく願いをいたします。

**教育部長**

ありがとうございました。

続きまして、教育長、ご挨拶、お願いいたします。

**教育長**

おはようございます。本日は、第2回目の山武市総合教育会議を開催いただきまして、まことにありがとうございます。

今、市長からもご挨拶ございましたが、前回は第1回目ということで、山武市の教育に対する取り組みについてご説明をさせていただき、ご理解を得てきたところでございます。本日は、そういった取り組みの中で、学力向上ですとか、コミュニティ・スクール化についてですとか、そういったことの今年度の活動の内容についてご報告をさせていただければなというふうに思っております。

また、来年100周年を迎えます成東・東金食虫植物群落についてでございますが、こちらにつきましては山武市にとって貴重な文化財ということで、その保護をしっかりとしていくべきではないかというようなご意見を議会からお伺いしているところでございます。そして、それらについて、現在の課題などについても、情報をしっかりと共有して、今後につなげていけるようにしたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

そのほか、市の課題であります学力向上対策など、こういったものにつきましても、その解決に大変時間の要することも多くある中ではございますが、社会が大きく変化していく中で、子どもたちが確実に将来の生きる力をつけられるよう取り組んでいっておりますので、いろいろとご意見をいただければというふうに思っております。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

**教育部長**

ありがとうございました。

それでは、これより議事に入ります。

なお、議長につきましては、「山武市総合教育会議設置要綱」第4条第1

項の規定によりまして、「会議は市長が招集し、会議の議長となる。」とありますので、市長に議長となつていただき、議事の進行をお願いしたいと思います。

それでは、市長、よろしくお願ひいたします。

---

◎議 事

山武市教育委員会の取組について

(1) 成東・東金食虫植物群落について

市長 それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

まず、「山武市教育委員会の取組について」、(1) 成東・東金食虫植物群落について、事務局より説明をお願ひいたします。

歴史民俗資料館長 山武市歴史民俗資料館の山口でございます。よろしくお願ひいたします。

まず、食虫植物について、スライドを使いご説明をさせていただきます。

食虫植物は、どのような植物であるかということ、栄養が乏しい湿原に生きるものでございます。ですから、栄養をとるために昆虫をとるということで食虫植物と言われております。世界で780種類、日本で20種類、千葉県では9種類、成東・東金食虫植物では8種類、9種類のうち8種類が現存しております。

お願ひします。

これは8種類のうちの4種類です。非常に写真では大きく見えますが、大変小さなものです。行きますと、ほんとうに顔をそばに寄せませんと見えないうらいのものです。

お願ひいたします。

成東植物、なぜ大事かといいますと、8種類の食虫があるということと、そのほかに、ほんとうに貴重な植物が440種類ございます。あと昆虫。当然、自然がいいということで、昆虫、動物、鳥類が生息しております。大きく捉えますと、九十九里平野も動植物にとっては大変な楽園であるということでございます。

お願ひいたします。

その楽園が、大正8年の文部技官による、特に特異な湿性植物多く、中でも食肉植物、食虫のことなんですが、種類に富み、かつ、多数自生するところは稀であり、原型のまま保存すべきということで、大正8年に調査報告がありました。それを受けて、大正9年の7月17日に、日本で最初の指定天然記念物ということになりました。当時は3万8,743平米でございました。

お願いいたします。

これが今の見たところなんです。今、この範囲が現在の指定地でございます。この周りを見ていただくとわかるんですが、長い長方形があります。これは耕地整理をした跡です。あと、ここ、新しく指定された部分ですが、これを見ていただくと、やっぱりちょっと長方形に見えますんで、この部分が当時は耕地整理をされた部分で、この部分がずっと残っていた部分ということがあります。この三角形のところを歩いて見られるところでございます。ここが管理棟でございます。

お願いします。

保護・増殖活動ですが、平成4年に維持管理計画、これは国に対するものですけれども、提出して、今現在もこのことをやっております。特に、この表土剥ぎ。表土には飛んできた種がたくさん出てしまいますので、中のほうにある栄養、種の上のほうにある栄養の詰まった土を排除するということを現状やっております。

お願いします。

これが、そのときできました、平成3年に成東町教育委員会で作った本でございます。

お願いします。

保護・増殖活動を実際は誰がやっているかといいますと、愛土会と守る会でございます。愛土会は昭和52年設立、それと、守る会は戦後間もなくから活動しております。

お願いします。

今、何をやっておりますかと簡単に言いますと、草刈りですね。これ、スキの根を掘った後のついてる土を全部落としていきます。

あと、この野焼き。これはこの前もあれですけども、残って腐って栄養があるよりも、焼いたほうが栄養が少ないということで、今、現状では全て野焼きをしております。

次、お願いします。

このように、植生の調査、親子教室、あとテレビなどで周知を図っています。

お願いいたします。

これが、2003年に出した本でございます。ここには究極的な目標として、ミュージアム構想を挙げております。

次、お願いします。

これが先ほど、食虫の範囲でございますけれども、これをこういう形で残して保存していこうということが、ここには書かれております。

お願いします。

この目標に向けて何が必要、これが一番、これからのことなんですが、今、資料館が担当しておりますが、資料館にいるメンバーは埋蔵文化財が担当なものですから、食虫植物担当1人、植物の専門職員が必要であろうと。それに向かって、先ほど言いましたミュージアム構想ではございませんが、維持管理計画というのも積極的に取り入れて、この構想をやっております。10年、20年かかるかもしれませんが、その構想を立てるといことです。

もう一つ必要なのは、必要な費用の原資でございます。今、ふるさと納税、ガバメントクラウドファンディングを使いまして、原資を集めていきたいと思っております。

次、お願いします。

今、山武のふるさと納税は、ここにありますが、愛土の醸成事業、子どもたちに市内の文化財、歴史・文化に触れる機会を設けて、郷土への理解・愛情を育むというものも含まれておりますので、ふるさと納税の使用は可能なかなと思っております。

次、お願いします。

ガバメントクラウドファンディングですけれども、これは今、いろいろ言いましたけど、新しく指定された地域についての境というのははっきりしません。今、よく人が入ってきてしまうんですけれども、そのことがないように、境の杭を立てたいというふうに考えております。

次、お願いします。

これはまとめに入るんですが、概要としては、8種類の食虫植物を守るためにはどうすればいいかということでございます。

まず、簡単に言いますと、食虫植物群落との境界地、先ほど言いましたけれども、周りが畑でございますので、非常に簡単に入ってこられてしまうということは、大変、食虫にはよくないということで、境の明瞭化をするということなんです。

あと、今群落は3万8,743平米あったものが、太平洋戦争と食糧増産でかなり減っているところなんですが、これも守ることによって、もっともっと食虫が繁茂できるような状態にすれば、最初の3万8,743平米に広がっていくんじゃないかということでございます。要は、食虫にとって、今、何が大事かといいますと、長期にわたる計画、それと、それを守るためにおけるお金の存在。原資のことですね。あと、それを専門に、もし扱えるならば、専門職員の採用が欠かせないように思っております。

以上でございます。よろしくお願いたします。

市長

どうぞ。

## 企画政策課長

企画政策課の中村と申します。今、クラウドファンディングのお話がありましたので、ちょっと補足説明させていただければと思います。資料のほうはございませんけれども、お話を聞いていただければというふうに思います。

初めに、クラウドファンディングということで、いろいろと耳にしたと、していると思いますけれども、そもそもクラウドファンディングってどういったものかというところで、ちょっとお話しさせていただきたいと思います。着座にて失礼いたします。

まず、「クラウド」という意味ですけれども、直訳すると群衆ということになります。ここでいえば人々、または一般大衆というふうに訳されると思います。それから「ファンディング」ですけれども、これは資金調達という意味がございます。そうしますと、個人や企業、またその他の機関がインターネットを介して不特定多数の方から資金を集めるという行為がクラウドファンディングというものでございます。

その歴史ですけれども、このクラウドファンディングは、2000年代にアメリカで、ウェブサイト上に開設が始まりました。日本では2011年に開設が始まっております。近年では、世界的に資金集めの方法として一般的なものになってきております。

続いて、「ガバメントクラウドファンディング」というものについてご説明したいと思います。

本市では、ふるさと納税をやっておりますけれども、その仲介ウェブサイト、“ふるさとチョイス”というもので窓口を開設しております。そこに委託しております、そこでふるさと納税制度というものを活用して行うクラウドファンディングの名前が「ガバメントクラウドファンディング」というものでございます。

この「ガバメント」という言葉ですけれども、直訳すると政府という意味になりますが、政府と同じように、地方自治体がいろいろな課題を解決するためにということで、自治体というふうに訳しております。

また、一般的なふるさと納税と、このガバメントクラウドファンディングというものの違いでございますが、一般的なふるさと納税は、寄附を行うことで税の優遇が受けられます。また、返礼品や使用目的を選択するというところで、地域産業や課題といったものの解決を支援するということができます。

ガバメントクラウドファンディングも、基本的な構造は同じでございます。ただし、使用目的を限定するというところが、ちょっと違います。また、寄附金の使い方ということで、使用目的が限定されるということなので、寄附者の方の思いが直接届くということになります。また、あくまで目的に賛同いただくという趣旨から、返礼品の設定をしていない事例も多くございます。

次に、実務上の話をさせていただきますと、返礼品を設定しない場合でも、寄附金額の10%が事務手数料としてかかってきます。また、返礼品を設定する場合は、通常のふるさと納税の場合と同様になりますけれども、事務手数料がほかに15%ほどかかってきたり、返礼品の代金だったり郵送料なども経費としてかかってきます。先ほど1,500万円という目標額がありましたが、その寄附金額の場合は、およそ850万円程度、経費としてかかるのではないかとこのように思われます。

今、市で行っているふるさと納税についても、500万程度、実は経費がかかっています。寄附金額は、平成30年度の見込みでございますが、約1,060万程度を今のところ見込んでおります。平成29年度、昨年度は1,760万円でしたので、700万程度、少し落ち込んでいるところでございます。

このガバメントクラウドファンディングは、県内の自治体でも実施しているところはございません。もし実施することになれば、先進的な取り組みになるであろうというふうに思います。

ふるさと納税を担当している課といたしましても、この成功に向けて協力をしていきたいと考えてございます。

簡単でございますが、説明は以上でございます。

## 市長

説明ありがとうございます。

今、成東・東金食虫植物群落について、ご説明をいただきました。それでは、委員の方々にご意見を伺いたいと思いますが、何かございませんでしょうか。

清水委員、お願いいたします。

## 清水委員

清水といいます。

私は旧成東町の出身なんで、この食虫植物群落につきましては非常に親しみを持っております。小さいときから、よく遊びに来まして、当時は、今でいえば違法なんだろうけど、黙って食虫植物を何種類か持って帰って、うちで飼養といいますか、したこともあります。ただ、ほとんどやっぱり枯れてしまうんですね。生育環境、似たようなものをつくるんですけども、なかなかうまくいったためしなかった。ほとんど100%枯れてしまって、ここで整備というのは非常に大切なんだと今にして思っております。

そういう意味で、大正年間に指定されて、非常に文化財的な価値が高いものなので、地元の、特に島地区の人たちは、ずっと努力して保存してきていますので、引き続き保存していく必要があるというふうに思っています。

ただ、こういう文化財的な価値はあるんですけども、山武市にとって非常に大きな財産でありますので、これを観光資源として、うまく使えないかと。

要するに、文化財的な価値だけではなくて、観光的な部分で使えないか。だとすれば、点としてではなくて、いろいろな観光資源を結んだ線的なものとして使えないか。例えば、浪切不動尊や左千夫資料館、それから郷土資料館を結んで、線で結びますと、ある程度、遊歩道的なものができるんじゃないかと思うんですが、駅からずっと結んで、こうやって歩いて行けますよと、何分ぐらいで行けますよといったようなことで、さらに、それにプラスしまして、やっぱり地元の人たちに愛されるということが非常に大事なんじゃないかと思うんですね。その他の来る人たちが感心して、たくさん来るのはいいですが、やっぱり地元の人たちがたくさん行くということが大事なんで、地元の人たちに愛される。それは誰が愛されるかという、一番時間のある人たちといえ、やっぱりご老人、退職したご老人たちがたくさんいますので、そういう方々のために、あるいはいらっしゃるような、そういう施設であってもいいのかなと思います。

そういう人たちが、じゃ、どういうふうにしていいかという、やっぱり健康対策として、歩いていただくと。そういう意味で、健康寿命を長くするために歩くということは非常にいいというふうに言われておりますので、ある程度、目印をつくって、これだけ歩いたら、これだけの効果があるよといったような目印ですね。ああいったカロリーを表示してもいいでしょうし、距離ごとに、これぐらい歩けばこういうものがあるよといったような、わかるような、そういう遊歩道的なものを整備してもいいのかなと。遊歩道を新しく整備するというのは、かなりお金がかかります。ですから、できれば立派な歩道をつくってもらいたいですけれども、これ、なかなかすぐには難しいかなと思いますので、今ある道路を使った形で表示だけつくってあげるということもいいのかなと。そのためには、やはり予算的な部分が必要になってくると思いますので、それからまた、教育委員会の仕事と少し外れてしまうのかなという部分もありますので、その辺、市長部局と教育委員会と連携しながら、そういう形での検討をしていただくといいのかなと思いますので、ぜひとも、それを実現していただきたいなと思います。

以上です。

市長

ありがとうございます。ほんとうに観光資源として、点じゃなく線でというところでご提案もいただきまして、ウォーキングにつなげていってはこのことでございます。ありがとうございます。

ほかにございますか。

木島委員、お願いいたします。

木島委員

委員の木島です。

今、清水委員のお話を聞いていまして、なるほどなと思いました。100周年という部分から、それにあわせて、ぜひプロモーションビデオみたいな形で、食虫植物群落を中心とした、清水委員がおっしゃったような設定コース。浪切不動もあったり、歴史民俗資料館もあつたみたいな形の、そういったものを若い男女がレンタサイクルか何か利用して、ここを歩いて、食虫植物群落がメインで、プロモーションビデオみたいなものを制作して、各主要ないろいろなもので放映してもらおうというようなものも、1つの、これから多くの人に知ってもらって、多くの人に来ていただいて、そしてクラウドファンディングで寄附のほうも、そういったものも、そういったプロモーションビデオを見た人が、こういうことで活用したいんだなというのが目で見たいと思いますので、そういったふうにつなげていただけたらなというふうに考えております。

以上でございます。

市長

ありがとうございます。やっぱり観光とつなげていけたらと思います。ほかにもございませんか。  
今関委員、お願いします。

今関委員

清水さんの話と関連するんですけども、子どもたちにとってもすごく学ぶことが多い場所だと思うんです。さらに観光としても考えられると思うんですけども、私、以前に熊本の御所浦に行ったときに、そこで化石発掘を、ボランティアの方が一緒にやってくれたことがあって、それで、その人との触れ合いが、とても子どもたちにとって、経験として、すごく大きくなったんです。でも、そのボランティアの方というのは、結局、そこにいる専門職員さんが中心となって、その講座をやってくれたからこそ、そのボランティアの方というのが、どんどん育って行って、その方が今度、さらに観光に来てくれた人たちに、その地域のよさであったりとか、化石のよさであったりというのを伝えるということをしていたので、やはり専門の職員が、ここにいてくれるって、食虫植物の場所に、しっかりいてくれるということがとても大事だと思うので、ぜひよろしくお願いします。

以上です。

市長

ありがとうございます。熊本の御所浦ですね。ありがとうございます。ほかにもございますか。  
小野崎委員、お願いします。

小野崎委員

小野崎です。おはようございます。

ここはご承知のように成東・東金の食虫植物群落というふうになっていますので、最初、市長さんが挨拶したように、東金との連携もあるということをおっしゃいましたが、100周年を機に、ぜひとも東金と、より強固な体制で、この群落を守っていただけるように努力いただければありがたいと思うので、ぜひお願いしたいと思います。

以上です。

市長

ありがとうございます。

ほかにもございますか。

最後に、このことについて、教育長に意見をお聞きしたいと思います。お願いします。

教育長

今、説明をさせていただいたように、大変貴重な場所であるということは、皆さんに共通理解いただけたことと思います。

今、自然環境そのものが大変大きく変化をしていく中で、今後の100年間も同じように守り続けていくというのは非常に大変なことだというふうに感じています。この100周年というものを機に、市全体での機運を高めて、そして保護活動の理解と充実に努めていきたいというふうに思っているところですので、ぜひよろしくお願いたします。

市長

どうもありがとうございました。

今、説明いただきまして、食虫植物群落が大正9年に指定されて、今まで守られてきたということで、私も何度か行かせていただいて、見させていただきました。そんな長く、ちゃんとやってくれたということで感動もしております。食虫植物群落に携わってきた方々に感謝を申し上げたいというふうに思います。

そして、現在までの環境の変化によって、群落が危機的状況であることは報告を受けております。この指定100年を契機に、何をすべきかを再考していきたいというふうに思います。現状に適した維持管理計画の策定。策定には専門家との連携等が不可欠であります。また、指定地の境界の不明瞭で、指定地内の侵入が断えないということもあります。境界の明瞭化が優先課題となっております。食虫植物群落だけではありませんが、文化財を維持管理するためには、人材、予算が必要であるということも実感をしているわけですので。

先ほど説明した予算のほうで、ガバメントクラウドファンディングなどを活用した、これは新しい山武市の取り組みになろうかと思いますが、そういうものを活用した経費の充足を図っていくことも、これからも考えていかな

ければならないということでもあります。

そして、小野崎委員がおっしゃったとおり、東金市、関係機関との連絡、これは100年、200年と、これから先も維持していくためには、山武市と東金市が一緒に進めていかなければならないと思っておりますので、そういうことも進めていきたいというふうに考えております。

## (2) 学力向上について

**市長** 続きますですが、2番目に移りたいと思います。「学力向上について」を議題とさせていただきます。

事務局より説明をお願いいたします。

**学校教育課指導室長** それでは、学校教育課指導室の越川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

2番目の「学力の向上について」、説明をさせていただきます。資料のほうは、別添、A4の資料がありますので、お願いいたします。

2次山武市総合計画の中の重点分野でもあります「学校教育の充実」、  
「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進について、説明をさせていただきます。

基本方針は2点、1つ目は、児童・生徒一人一人のニーズに応じた教育の推進と教員の授業力の向上、2つ目として、基礎知識の定着と思考力・判断力・表現力を身につけ、学習意欲と学力を身につけた生徒の育成であります。

計画期間中での主な取組内容は、記載されているように7点掲げさせていただきました。1つ目は、市雇用の少人数指導講師を配置、また増員し、きめ細やかな少人数指導の充実を図っていきます。2つ目として、基礎的・基本的知識を習得するためのドリル学習の推進を行います。3つ目、ICT機器を有効的に活用した授業の推進を行います。4つ目、タブレット等を活用した反復学習を推進いたします。5つ目、市内全生徒に、引き続き英語検定料、1人、年1回であります、全額補助を行い、英語力アップ講座を開催いたします。6つ目として、市内全児童を対象に、異文化理解講座を実施いたします。7つ目、小学校の教員を対象にした外国語授業力アップ研修会を開催いたします。

今挙げた7つの取組の中で、特に具体的な方策として、3つ挙げさせていただきます。

1つ目は、児童・生徒の学力の向上の観点から、31年度より学力向上推進校を指定し、小学校1校、中学校1校をモデル校として、市雇用の少人数指導講師の配置を行い、人的サポートをしたり、ドリル学習の支援などを

行っていきます。

2つ目として、教員の授業力の向上の観点から、授業力向上研修会を開催します。ICT 機器を有効活用し、教員のスキルアップのためにICT 支援員を活用し、校内研修の計画と実施を行っていきます。また、小学校の教員を対象にした外国語の授業力アップ講座を開催していきます。また、これまで各校がそれぞれ行っていた全国学力学習状況調査等のデータの検証について、専門の講師を招いて研修会を実施し、データの検証力をつけ、活用方法について向上させていこうと思っております。

3つ目として、NPO 法人GAA と連携した取組として、学習支援パイロット事業をこの3学期から試験的に行っておるわけなのですが、31年度も引き続き行い、小学校の低学年、1・2年生を対象に、ティームティーチングによる少人数指導を実施し、低学年段階での学力差の解消と学びの基礎を構築させていきます。これらの取組の検証として、小学校5年生と中学校2年生を対象に、千葉県標準学力検査の県平均を超えた児童・生徒数の割合を見て検証をしていきます。児童・生徒の一人一人のニーズに対応した学習環境を整え、学力の向上を目指していきたいと思っております。

説明については以上です。よろしくお願いたします。

市長

ありがとうございました。今、学力向上について報告をいただきました。委員の皆様方からご意見をお伺いしたいと思います。お願いたします。  
渡邊委員、お願いたします。

渡邊委員

教育委員の渡邊です。よろしくお願いたします。

ICT 支援員を活用した校内研修を充実させるという取り組みに対して、ここは本市の目玉であるところなので、ぜひとも進めていただきたいのですが、ICT 支援員の派遣時数が当初より減ってしまったのはちょっと残念です。学校によって新しく教えるために、つきっきりになってしまって、自分の仕事ができなくて困っているんだという声も聞きました。当初のように、ICT 支援員の派遣時数を増やしていただき、校内で研究した資料をさらにほかの学校にも情報を共有化したりする横の連携もして、市全体が高まっていったらいいなというふうに思います。

また、小学校の教員を対象にした外国語授業力アップ講座を2回ということで、研修をさせていただくことは大変結構だと思うし、教師は授業が勝負ですので大切なんです、あわせて、前回もお願いしたように、英語が教科化になりますので、ALT の活用拡大も図り、週に2回、必ずそこに充ててもらえたら、さらに学力は向上するのではないかなというふうに思っています。

あと、私は、GAAに所属しているんですけども、学習習慣、家庭学習ということで、家庭の教育力を高めるということで、1つに成東駅前の公営塾も設置してまして、そこでお金をかけずに勉強したい者が勉強し、GAAの職員がそこで支援をしているというのもありますので、以外と知られていないので、そのPRをしていただきたいと思いました。

以上です。

市長

渡邊委員、ありがとうございました。

清水委員、お願いいたします。

清水委員

それでは、私から学力向上について、お話しさせていただきたいと思いません。

つい最近、成田国際空港は拡充という形で、さらに就業人口が3万人以上増えているというお話が出ています。そういう人たちは、できるだけ山武市に住んでいただいて、子どもたちを育てていただきたいというふうに思うわけでありまして、それが今、人口減少している1つの対策にもなるのかな、そういうふうに思っております。

そのためには何が重要かといいますと、そういう若い人たちが何が興味あるかという、やはり教育だと思うんですね。やはり自分の子どもたちを、どういう学校に入れるかということは、そういう若い人たちにとって一番の大きな関心事になると思います。

そういう中で、今の山武市の教育環境というのは、いいのか悪いのかといったときには、必ずしもいいとは言えないのかなというふうに思っております。そういう意味で、学力向上、いろいろな施策を打っております。じゃ、ほかの市に比べてよくないかという、決してそうではなくて、むしろ、よくやっているんじゃないかと思えます。

では、何が原因かといいますと、やはり学校以外の環境、学力向上に対する、いろんな取り組みが低いのではないのかな。いわゆる家庭教育も含めて、外部の教育環境というのはよくないんじゃないか。

それを見ますと、例えば、塾なんかを見ても、都市部に比べて数が決して多いとは言えない。特に田舎のほうに行きますと、塾はほとんどないと言ってもいいんじゃないかと思えますね。ですから、そういう意味で、例えば、山武市とほかの町村を比べますと、家庭における勉強時間というものは、学校を出てから、家庭における勉強時間というのは非常に少ないですね。スマホとかゲームをやっている時間は長いんですけども、家庭におけるそういう勉強時間というのは非常に短い。

これはなぜかという、やっぱり家庭における取り組みの仕方、あるいは

全体における環境におけるせいなのかなと思います。そういう意味で、こういう学校外における学習というんですか、こういった環境を整えていただきたいな。そのために、教育委員会として、いろいろやっております。けれども、それにはおのずと限界がありまして、教育委員会外からの力も借りないと、なかなかそれがうまくいかないんじゃないかなというふうに思っております。

例えば、社会福祉関係で学童保育、これは文科省の所管外の仕事でありますけれども、そこで保育をやっておりますけれども、そういうところでも、場合によっては、ある程度、授業外の授業をやっていただいて、勉強する機会ですよ。宿題とか、あるいは子どもたちがわからない部分についての教え方、こういったものをやっていただけるような、そういう機会をつくっていただければありがたいなというふうに思っています。これについては厚労省のほうもなかなか抵抗しているようで、そういう勉強させることはいかんみたいな、そういう通知が出ているようなので、ただ、その抜け道を活用して、いろいろやっているところも、ほかの市ではあるやに聞いておりますんで、我が山武市のほうでも、その辺、うまく工夫して、そういう勉強する機会を子どもたちにぜひつくってあげていただきたいというふうに思います。

もちろん、学校のほうでは、できる範囲内で目いっぱいやっておりますし、これからもやっていくだろうというお話でも、それ以外においても学力向上のための機会というのをつくってあげていただきたいというふうに思っております。

以上です。

市長

清水委員、ありがとうございます。特に人口減対策ということで触れていただきましたので、私も就任して9カ月ぐらいになりましたけれども、確かに人口減対策、いろいろ打っていかなくちゃいけない。その中の山武市としての目玉というか売り、それはやっぱり教育も目玉になるだろうし、売りになるんじゃないかなというふうに思っております。

やっぱり学力向上ということでは、ある意味、数字で出てしまうところもありますんで、これはしっかり対策を打っていかなくちゃいけないんだなというふうに思います。特に、今、委員がおっしゃったとおり、学校外の取り組み、これも非常に大事なものであるというふうに思っておりますので、その辺も、今伺ったことを参考にして、勉強していきたいと思っております。ありがとうございます。

清水委員

ちょっとよろしいですか。

ちなみに、この前もお話したんですけど、私の近所のアパートに住んで

いる方は、中学校に行くことになって、それで引っ越すと言うんですね。3人ぐらい引っ越していきました。東金市に。というのは、山武市の中学校に行くよりは、向こうの中学校に行ったほうがいい高校に行けるという理由で引っ越していきました。やはり親御さんにとっては、そういう学力の問題というのは非常に大きなあれなんだなど。ここに今関委員がいて、非常にいつも子どもさんの教育について熱心にお話しされているので、やっぱりそうなんだなど。私のかつての経験からいっても、自分の子どもの教育に関しては非常に関心がありますので、やはり新しく入ってくる方というのは、その地域の学校は、学校、あるいはその地域に行ったときに、子どもがどういう学力をつけるか、あるいはどういう高校に行けるか、どういう大学に行けるかということは非常に大きな関心事だと思うんですね。それがいい高校、いい大学に行けるとなれば、そこに定住してくれると思うんですね。そういう意味で、非常に大切なのかなというふうに思っています。

市長

ありがとうございました。  
ほかにございますか。  
今関委員、お願いいたします。

今関委員

資料にあるとおり、英語検定の全額補助や英語力アップ講座などを行っているんですね。これはとても近隣市町村の中でもすぐれていることだと思うんですけども、いまいち周知がされていないのが、すぐもったいないことだと思うので、ぜひ、市長部局挙げて、こういうことをやっていますよというアピールをしていただけると、山武市、こんなに教育環境が整っている部分もあるということをアピールできることだと思うので、それが家庭につながることによって、学校では、いろんなことをやっているということを家庭と密に連絡を取り合いながらやっていくことが学力の向上につながっていくと思うので、よろしく申し上げます。  
以上です。

市長

ありがとうございます。山武市の取り組みですね。アピールということでいただきました。ありがとうございます。  
ほかにございますか。  
渡邊委員、お願いします。

渡邊委員

すいません。1つ落としまして。  
教育機器はかなり導入されているんですが、活用のほうになると、やっぱり自分の教師の経験から、セットしたりとか、それに向けた教材研究が必要

だったりとかということ、さっと直で、1本でやっちゃうわというほうが手っ取り早かったりして、つい活用がおろそかになりがちな面もあります。

そんな折、文科省では、デジタル教科書の制度化に向けて、もうかなり進んでいます。デジタル教科書とタブレットを併用した授業ですと、かなり教師もやりやすいところがたくさん出てきますので、配分されているとは思いますが、お金のかかることです。なるべく多くの学校に活用されたいと望んでいます。

以上です。

市長

ありがとうございました。

ほかにごありますか。よろしいですか。

それでは、ここで最後に教育長から一言、ご意見いただきたいと思います。

教育長

学力向上につきましては、山武市の課題として、長く取り組んでいるところでございますが、先ほど来出ているように、数字として見える部分では、なかなか大きな効果が出てきていないというのが実情でございます。

今、求められる学力そのものが大きく変化をしてくれています。そんな中で、指導方法ですとか評価の仕方、そういったものもどんどん変わってきていく中で、学校でも大変難しい局面を迎えているというふうに思っています。ICT 機器の活用、またグローバル化への対応等、大切なこともたくさんございます。それについては山武市教委としては、できる限りの対応をとって進めてはいるところでございますが、やはり全てにおいて基礎学力の向上というのは必要なものだというふうに認識しておりますので、今後もそういった部分がしっかりと目に見える形であられるように努めていきたいというふうに思っておりますので、ご協力、よろしくお願いいたします。

市長

教育長、ありがとうございました。また、委員の皆さん、ありがとうございました。

8月に行われました第1回目の教育総合会議の中でも協議がされまして、またグローバル教育とICT教育についてのご意見をいただきました。山武市の子どもたちの喫緊の課題は、やっぱり学力向上であるということで認識をさせていただきました。

この子どもたちの学力向上を図るためには、学校の教育力を高めるということも必要ですが、それだけではなくて、あわせて、清水委員のおっしゃったとおり、家庭や地域の環境を整えなきゃいけない。家庭や地域の教育力を高めていくことが必要であるというふうに、皆様方から言っていたと思います。その辺も含めまして、しっかりと取り組んでいきたいと思

います。

### (3) コミュニティ・スクールについて

市長

続きまして、3番目に入りたいと思います。「コミュニティ・スクールについて」を議題とさせていただきたいと思います。

それでは、事務局からご説明をお願いをいたします。

生涯学習課長

生涯学習課の神谷です。本日はコミュニティ・スクール制度について説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、コミュニティ・スクールとは何かですが、コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を導入して学校を運営している学校のことを指します。

学校運営協議会は、学校と地域住民等が学校運営について話し合う組織です。それぞれが力を合わせて学校の運営に取り組むことで、地域と一体となった特色ある学校づくりを進めていくことができます。

こちらは学校評議員制度と学校運営協議会制度の違いについて、簡単にまとめたものです。

現在、山武市内の学校では、表の左側にあります、学校評議員制度を用いて、保護者や地域住民の目線を取り入れた学校運営を行っています。それぞれ法的根拠に基づいて設置されており、違いとしては、学校運営協議会の設置が努力義務化されているところにあります。

委員の任命の中では、学校運営協議会委員は非常勤の特別職となるため、教育委員会の規則で守秘義務を付している点も異なる点となります。

任務ですが、学校評議員制度では、校長の求めに応じ、個人として意見を言うことができるのに対しまして、学校運営協議会では、この後ご説明します3つの役割に基づき、教育委員会や校長に対し意見を述べるときは、個人の意見ではなく、保護者や地域住民等の代表による学校運営協議会合議体として意見を述べるできるようになります。

学校運営協議会には、学校運営に関して一定の権限が与えられる制度となっております。

では、学校運営協議会が持つ3つの役割について説明させていただきます。

1つ目は、校長が作成する学校運営の基本方針を承認することです。学校運営協議会は、校長が作成する学校運営の基本方針の承認を通じて、育てたい子ども像や目指す学校像等に関する学校運営のビジョンを共有し、協働へとつなげていくことを重要としています。

2つ目の役割がこちらになります。学校運営協議会は、校長が作成する基本方針の承認にとどまらず、広く地域住民等の意見を反映する観点から、当

該学校の運営全般について、教育委員会または校長に対し意見を申し入れることができるというものです。委員からは、子どもたちの教育や学校運営の当事者として意見が得られ、学校だけでは気づくことができなかつた学校の魅力や課題を共有することができます。

3つ目の役割ですが、学校運営協議会は、学校の課題解決や教育活動の充実のため、校内体制の整備・充実を図る観点から、教育委員会規則に定める事項について、教職員採用に関し、直接、任命権者である教育委員会に意見を述べるができるというものです。本市の規則では、協議会の設置趣旨を踏まえ、学校運営の基本方針の実現に資する事項、対象学校の教育上の課題を踏まえた一般的な事項、この2つの事項に関して意見を述べられるとしております。

次に、学校運営協議会の組織についてご説明いたします。委員数、委員の構成、任期は教育委員会規則で定められています。本市では、協議会の委員数を15名と決めました。委員の構成は、さまざまな立場の方から広く意見を得るようになるため、地域住民、保護者、学校活動の協力者、校長、教職員、学識経験者、関係機関の職員、その他教育委員会が適当と認める者で構成することとしております。任期は1年となっており、再任は妨げないこととなっております。

では、ここで、導入に際しまして期待される効果をご紹介します。

1つ目は、みんなで教育ができるという点です。保護者、地域住民等も子どもたちの教育に当事者となり、責任感を持って、積極的に子どもへの教育に関わることができるようになります。

具体的には、地域住民等が子どもたちに積極的に声をかけたり、直接助言したりする場面が増えてくる。学校が保護者や地域住民と一緒に課題等に対する対応策を考え、実行に移すことができる。地域ぐるみで効果的に子どもを育む体制が構築されるといった例がございます。このほかに、顔がわかる関係になるという点から、災害時の避難所等の設営がスムーズであったといった例も挙げられております。

2つ目は、学びが充実するという点です。保護者、地域住民等にとって、学校運営や教育活動への参画は、自己有用感や生きがいにつながり、子どもたちの学びや体験が充実します。具体的には、多くの大人の専門性や地域の力を生かした学校運営や教育活動が実現し、子どもたちに多様な経験を積ませることができる。学校が社会的につながりを得られる場となり、地域のよりどころとなる。地域の特性を生かした学びの目標を共有した上で実施することにより、学校での学びがより豊かな広がりを持つといった点が挙げられます。

3つ目は、学校の応援団ができるという点です。学校、保護者、地域住民、それぞれの顔が見える関係となり、保護者や地域住民等の理解と協力を得た学校運営が実現します。具体的には、学校の現状や運営方針について理解が深まり、地域が学校を助けてくれる。学校、家庭、地域の適切な役割分担により、教職員が子どもと向き合う時間の確保につながるといった効果が期待されます。

これまでお話ししたことをまとめたのが、こちらの図になります。

学校運営協議会に参加した委員により、校長が決めました学校運営の方針や、学校や教育活動につきまして、校長、教育委員会に意見を述べる。あと教職員の任用に関する意見を述べるといった、学校運営協議会が年3回ほど開かれると思います。こちらの中で話し合われた内容については、地元と共有するため、協議会の結果に関しては情報提供を努力義務化されております。

最後に、コミュニティ・スクール導入については、導入することで終わりではないと言われております。講演会では、コミュニティ・スクールの成果が実感できるのは、設置して5年が必要。その中で、みんなで知恵を出し合って育てていくことで、地域と学校が力を合わせていく形ができる。設置後、確かに事務量は増える。しかし、地域や保護者の支援が得られ、開かれた教育課程の実現、教育の質の向上、そして地域からの苦情が減ったりするなど、それを補って余りある業務改善が図られるなどの話がございませう。今後、協議会で話し合われ、地域と学校が連携することで、子どもたちの教育環境の向上、学校の業務改善といった教育関係だけではなく、地域づくりへの学校参画など、まちづくり、郷土愛の醸成につながるような取り組みに発展していければと考えております。

私からの説明は以上になります。

**市長**

説明、ありがとうございました。コミュニティ・スクールについて、ただいま説明がありました。ここで委員の皆様方からご意見を伺いたいと思ひます。ご発言、お願いします。

木島委員、お願いします。

**木島委員**

委員の木島です。

まだまだ、なじみの薄い言葉であり、組織なのかなというところで、私なりにまとめさせていただいたものを市長のほうに申し上げることで、そういうものなのかなというふうにご理解いただければと思ひます。

簡単に申し上げますと、今まで大体、学校に携わる地域の人たちというのはPTAの方たちが中心で、今も実際、PTAの方たちに一生懸命やっていたらいるんですけども、PTAの保護者の皆さんというのは、子どもたちが

卒業すると同時に、学校との関係もだんだん希薄になってしまうというような、ある意味、ちょっと弱点があったわけですね。ですけども、こういったコミュニティ・スクールの組織をつくることによりまして、同じパワー、そのメンバーの持っている、学校に対する、地域の協力に対する熱意みたいなものが、ずっと同じパワーで継続して、学校、あるいは地域教育のほうに向けていただけるというもので、今も神谷課長のほうからも話がありましたけれども、まさしく地域教育力の向上、質の向上ということで、この組織というのに、やはり必要不可欠なものだということで、ぜひ、市長部局のほうとしまして、この学校運営協議会、まだまだ立ち上げるのに、いろいろな課題も山積しておりますけれども、ぜひ力を教育委員会のほうにおかりいただきまして、立派な組織ができれば、必ず地域教育力の向上につながると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

市長

ありがとうございました。  
清水委員、お願ひします。

清水委員

清水ですが。  
さっき、神谷課長の話があったように、まちづくりという点から、コミュニティ・スクール、非常に大きな成果を上げるんじゃないかなというふうに考えております。そういう意味で、教育委員会の仕事だというふうに思わないで、市長部局のまちづくり部門、場合によっては福祉部門、こういったものも大いに参加していただいて、どのようにまちづくりで活用できるのか、あるいは活用すべきなのか、こういったものを通じて、山武市らしいコミュニティ・スクール。ほかの市でも、コミュニティ・スクール、たくさんやっておりますけれども、山武市らしい特色あるコミュニティ・スクールに、ぜひひともしていきたいなというふうに考えておりますので、よろしくお願ひいたします。  
以上です。

市長

ありがとうございました。  
ほかに。  
渡邊委員、お願ひします。

渡邊委員

先ほど説明の中で、「学校の応援団」というのがキーワード、そんな姿勢で、よき学校の理解者や支援者であってほしいなというふうに思ひます。それがうまく連携ができたときに、これがいいほうに回転していくんじゃないかなと思ひます。

具体的には、学校カリキュラムの中に、地域人材を活用したいところって多々あります。例えば、生活科や総合的な学習の時間、そういった地域の先生、あるいはよく知っている人、お手伝いできる人、そういう人たちをたくさん活用したり、また児童数が減っていますので、当然、応援部隊も減ってきています。なので、地域挙げての環境整備とか、そういったことで、学校をみんなで盛り上げていこうというような姿勢であつたら大変うまくいくんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

市長

ありがとうございます。

ほかにもございますか。

それでは、教育長からご意見を伺いたいと思います。

教育長

今、コミュニティ・スクールについて、ご説明させていただきました。今後、学校の小規模化というのがどんどん進んでいく中で、学校経営において、地域と一体となった協働による教育環境の整備、そして目指す教育、目指す子ども像を共有して、その実現のために学校と地域が連携し、一体となって運営に臨むということは、今後、ほんとうに重要で、必要なことになってくるというふうに思っています。現在では、新しく統合する学校について、コミュニティ・スクール化を進めているところでございますが、今後の状況によっては、さらにそれを広げていくことも検討する時期が来るんじゃないかなというふうに考えているところでもございます。いずれにしても、今までと違う形で、地域と一体となった学校運営ということの取り組みでございまして、先ほど話もあつたように、まちづくりとか、そういった点にもつながることだというふうに思っておりますので、ご協力、よろしく願いいたします。

市長

ありがとうございました。

山武市では、これまで市民協働によりますまちづくりを推進してきました。今回のコミュニティ・スクールについては、市民協働によります教育現場づくりだということで理解をさせていただきます。

山武市の課題は、先ほどもお話ししましたが、人口減少でございます。人口減少抑制策の1つに教育があるということを考えておりますので、教育委員会の教育方針に「苗半作」というものがあります。小学校、中学校という多感な時期に、地域について勉強すること、また、地域の方々と一緒になって教育を進めることは、郷土愛の醸成につながる1つの手段になると思います。

先ほど、効果が出るのに5年かかるという話もありましたが、効果を出すまで諦めずに継続していただければというふうに思います。

協働については部局を超えた取り組みも必要となると思います。必要な取り組みについては、オール山武市で当たり、この取り組みが山武市の危機的な人口減少の改善につながればということを考えております。加えて、山武市らしい取り組みができればと思いますので、よろしく申し上げます。ありがとうございます。

#### (4) 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置について

**市長** 続きまして、4つ目の議題に入らせていただきます。「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置について」を議題とさせていただきます。  
それでは、お願いいたします。

**教育長** 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置についてでございますが、現在のところ、豊岡小学校と松尾小学校が新松尾小として、また、山武南中学校と山武中学校が新生山武中学校として、この4月に開校すべく準備を進めているところでございます。おかげさまをもちまして、校歌、校章等、必要なものがどんどん決まってきました、開校に向けて準備が進んでおります。  
また、日向小学校と山武西小学校の統合につきましても、今後、統合準備委員会を立ち上げて、具体的な検討に進んでいく状況となっております。  
蓮沼中学校と松尾中学校の統合につきましてですが、昨年8月に行われました総合教育会議の中で、早期に統合していくということについては、その方向性が一致をしたところでございます。そして、統合時期については、教育委員会のほうで検討していくということになっておりました。教育委員会におきましても、この件について何度か協議を重ねてきているところでございますが、現時点ではっきりとした時期の結論が出せておりません。今後も、これについては協議をしてみたいと思いますので、よろしく申し上げます。  
また、もう1点の成東中学校、成東東中学校につきましては、31年度中に地域の皆様の意見を聞いていくということで、市長のほうからも議会等で答弁をいただいているところでございますので、これにつきましては十分に市長のほうとも打ち合わせをしながら、慎重に進めていきたいというふうに思っているところでございます。  
以上です。よろしく申し上げます。

**市長** ただいま、教育長より、蓮沼中学校と松尾中学校の統合については協議中

であるという報告がございました。教育委員の皆様方には、ご協議をいただき、ほんとうにありがとうございます。この件につきましては、今後も引き続き検討をよろしくお願いをしたいと思います。

以上で議事は終了となりますが、全体を通して何かございましたら、お願いしたいと思います。

教育長、お願いします。

## 教育長

今までお話ししてきた内容とはちょっと違うんですが、最近、いろいろな事件が起こっている中で、野田のほうで起こった事件がございました。小学校4年生の女の子なんです。これに関して、教育委員会のほうで、子どもからとったアンケート、父親から虐待を受けていて助けてほしいというような回答のあったアンケートがあったと。それを父親の強い攻撃的な申し出によって開示してしまったということがございました。私どもとしては、この事件を踏まえて、今後、やはり子どもたちの安心・安全、生命を第一に考えて、そういった力に屈しないで、しっかりと対応していきたいというふうに考えているところでございますので、そういった面でも、ぜひお力をおかしただければと思っております。よろしくお願いします。

## 市長

ありがとうございます。野田のほうの事件ということで、それについても検討してくれているということで、ほんとうにありがたいというふうに思っています。

ほかにもございますか。

子育て支援課長、お願いいたします。

## 子育て支援課長

子育て支援課の横地です。よろしくお願いします。

私のほうからは、山武地区市立幼稚園の状況につきまして、お配りしております資料に基づいて、ご説明を申し上げます。着座にて失礼します。

お配りしております資料、平成31年1月29日現在の来年度の入園申し込み状況となっております。

日向幼稚園は30年度より21名増の87名の入園希望がございました。むつみのおか幼稚園につきましては、今年度27名ですが、31年度入園希望者は今年度から12名減の15名となっております。

市としましては、平成31年度以降、むつみのおか幼稚園の園児数が増える見込みがない状況を考えまして、むつみのおか幼稚園在園児保護者及び新入園児保護者、並びに日向幼稚園の在園児保護者と新入園児保護者に、1月中に意見交換会を実施させていただきました。あわせて、私立の日向保育園、若杉保育園についても、園に行きまして、ご説明を行ってまいりました。

なお、幼稚園の今後につきましては、定例教育委員会において協議してまいります。

以上、簡単ではございますが、山武地区市立幼稚園の状況の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

市長

ただいま報告がありました。

ほかに何かございますか。

それでは、以上で終了となりますが、全体的にほかに何かございましたら、お願いいたします。ありませんか。

---

市長

ありがとうございました。

以上で平成30年度第2回山武市総合教育会議を終了させていただきます。ほんとうに皆さん、ありがとうございました。

---

◎閉 会 午前11時15分